

令和5年 3月 30日

瀬戸内市議会議長

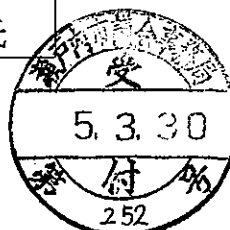
廣田 均 様

瀬戸内市議会議員 成本 崇

政務活動費研修報告書

政務活動費を使用して、次のとおり研修活動をしましたので、その結果を報告します。

期 間	令和4年 11月 1日 ～ 令和4年 11月 2日
研修会名	公益財団法人全国市町村研修財団 全国市町村国際文化研修所〈令和4年度市町村議会議員研修〉 「議会改革を考える～先進事例に学ぶ住民参加・情報公開～」
開催場所	全国市町村国際文化研修所
研修目的・ 内容	<p>目的①；議会改革を進めるにあたっての基本的な事項(地方自治の現状、国の法制度の変化、人口減少による地域の変化など)について学ぶ。</p> <p>目的②；議会への住民参加、情報公開に関して、先進事例の紹介を聞き、意見交換等を通じて理解を深める。</p> <p>目的③；ダイアログ(自分の意見を伝え、相手の考えを理解し、互いに協力して解決策を導くためのコミュニケーションの方法)を用いた演習を体験し、会議や議員間討議の進め方を学ぶ。</p> <p>講義 「議会改革度調査」から見る地方議会、講師 早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏</p> <p>早稲田大学マニフェスト研究所において実施された「議会改革度調査」から見る先進議会の議会改革事例について、議会基本条例のあり方、作り方、改正や検証方法等も含めて、解説があった。</p> <p>事例紹介・演習 住民参加・情報公開を進める取組 1、演者 徳島県那賀町議会議員・議会改革特別委員会 委員長 柏木 岳 氏、コーディネーター:早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏</p>



	<p>「車座会議」と銘打つリピーターが増える議会意見交換会や、若者の生の声を拾う新成人へのアンケート等住民参加の新たな手法、「情報公開」の発展形である「情報拡散」の考え方とその実例、不信感のレッテルを貼られた政務活動費に代わる、頑張る議員に手当てする手法など、目からうろこの議会改革のナマ情報をお話しいただいた後、質疑応答を通して理解を深めた。</p> <p>事例紹介・演習 住民参加・情報公開を進める取組 2、演者 茨城県取手市議会事務局 次長 岩崎 弘宜 氏、コーディネーター:早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏 デモテック戦略(デモクラシー×テクノロジー)によるデジタル技術の活用や議事録視覚化システム、市民リライターの試行等、住民参加・情報公開を進める取組について、改革の経緯や現状、取組を始めたことによる効果や今後の展開等についてお話しいただいた後、質疑応答を通して理解を深めた。</p> <p>講義・質疑応答 DX時代における地方議会の展望、講師 早稲田大学名誉教授 北川 正恭 氏 地方自治を取り巻く現状を解説いただき、そのなかで議会や議員に求められている役割やあり方についてお話しいただいた。また、現在全国で進められている議会改革の動向についてもご紹介いただいた。</p> <p>演習 各議会における今後の議会改革推進の検討、演者 早稲田大学マニフェスト研究所 事務局長 中村 健 氏 効率的な会議の行い方について学ぶために、「議会広報を考える」をテーマに、ダイアログ(対話)の手法を用いた演習を体験し、どのように議員間討議を行うか、どのような手法を用いれば会議の成果が挙がるかを学んだ。</p>
所 感	<ul style="list-style-type: none"> ・議会改革をテーマとした今回の研修会は、研修所での実地参加にも関わらず抽選となる程の申し込み数であったと聞き、議会改革の必要性が他の多くの議会でも認識されていることを実感しました。 ・各講師からの先進事例の紹介により、議会のあり方や運営方法に決まった形はないということ。特にデジタル化が進み、今まで出来なかったことができるようになっているがよくわかりました。 ・先進的な議会改革を行っている議会では、議員と議会事務局の関係性がフラットな関係で、互いに協力して進めている。

改革を進めるためには、議員の事務局の捉え方を変えることが必要だと思いました。

また、東京都墨田区のように事務局職員からの提案権を認める議会基本条例を制定している自治体の事例もあり、今までの認識が必ずしも正解ではないと感じました。

・ 2000年に制定された地方分権法、地方分権一括法により、国と地方は上下主従から対等協力となっている。議会もそれまでに行ってきた監視機能だけでなく、民意の吸収を行って、それを反映させる政策立案機能を活発化させなければならない。

活発な自治体では、議会報告会や意見交換会を民意の吸収に活用している。西脇市議会の議会報告会を年間45回開催している事例紹介もあった。様々な紹介事例でも、最初から議会報告会を円滑に行っていた訳ではなく、開催にあたっての問題や課題を随時解消して現在に至っている。いくつもの壁を乗り越えるには、民意吸収・政策立案の重要性を議会で認識し、そこに進んでいくという決断をもつことが必要だと思いました。

・ 今回の二日間の研修に参加して、議会改革は終わりが無いことを再認識しました。

社会情勢やIT技術の変化などで刻々と対応が必要なことや対応ができるようになったことが変わってきています。常に何が足りないか、変化が必要かと検証していき、議会も変わり続けることが市民に必要とされる議会につながると思います。

とはいえ、議会のあり方について、議員それぞれの捉え方は多様です。一つずつの変化を起こし、成功体験を積み重ねていくことで改革につなげていくことが必要であると感じました。